

第**78**期 第2四半期

2017.1/1 ▶ 2017.6/30

KURIYAMA REPORT

目次

ごあいさつ	P.1
CEOインタビュー	P.2
セグメントのご紹介	P.3
連結業績	P.9
株式情報	P.10
会社の概要・株主メモ	



クリヤマホールディングス株式会社
KURIYAMA HOLDINGS CORPORATION

ごあいさつ

株主の皆様へ

顧客のニーズをつかみ、 社会に貢献する企業グループを目指して

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、当社は2017年6月30日をもって第78期（2017年1月1日から2017年12月31日まで）の上半期が終了しましたので、ここに営業の概況をご報告申し上げます。

当第2四半期における世界経済は、米国では個人消費の増加や雇用状況の改善により景気は緩やかに回復しました。中国では景気に持ち直しの動きが見られ、欧州ではドイツや英国で景気は緩やかに回復しました。しかしながら、米国新政権の政策動向や欧州の政治不安や中東・東アジアの地政学的リスク等により、先行き不透明な状況となっております。

また、日本経済は企業収益や雇用状況が改善する等、景気は緩やかに回復基調で推移しました。

このような経済環境のもと、当社グループの連結売上高は245億37百万円（前年同期比2.6%増）となり、営業利益は11億15百万円（前年同期比28.2%減）、経常利益は13億49百万円（前年同期比13.9%減）となりました。また、クリヤマコンサルトの株式売却益を特別利益に計上したことから、親会社株主に帰属する四半期純利益は20億85百万円（前年同期比91.9%増）となりました。

今後とも一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



クリヤマホールディングス株式会社

代表取締役CEO 芦田 敏之

2017年8月

第78期上半期実績(連結)

売上高

245億37百万円

前年同期比

2.6%増



営業利益

11億15百万円

前年同期比

28.2%減



経常利益

13億49百万円

前年同期比

13.9%減



親会社株主に帰属する
四半期純利益

20億85百万円

前年同期比

91.9%増



Q1 上半期を振り返っていかがでしたか？

A1

北米事業においては、原油価格の上昇や、米国の堅調な個人消費を背景に、昨年苦戦したシェール・オイル&ガス市場向けホースの販売が回復してまいりました。また飲料用ホースや高圧ホースも堅調に推移しています。アジア事業では、中国の建設機械増産による量産機械用部材の販売回復や、建設機械・農業機械向けの排ガス規制に対応する尿素SCRセンサー及びモジュールタンクの堅調な販売や、前期に続く大型客船二番船工事の売上など、産業資材事業が好調です。建設資材事業は昨年同期にあったような大型の民間商業施設物件の

相次ぐ受注などはございませんが、公共事業関連、鉄道関連での商品販売は堅調に推移しています。

今期は世界政治や世界経済情勢が、事業に大きく影響する可能性を心配しておりましたが、予想に反して落ち着いた回復基調のスタートとなりました。今後も世界景気の先行きが不透明な状況は続きますが、当社といたしましては需要が旺盛な尿素SCRセンサーの生産設備増強など、将来の業績拡大に必要な分野へ積極的な投資を行ないながら、引き続き企業価値の向上に努めてまいります。

Q2 グループ子会社の状況をお聞かせください。

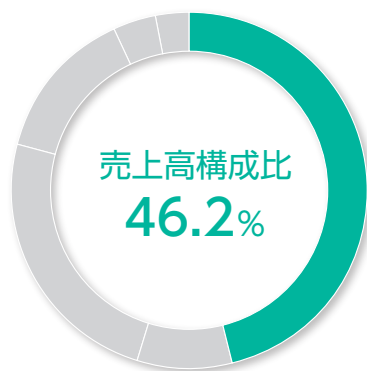
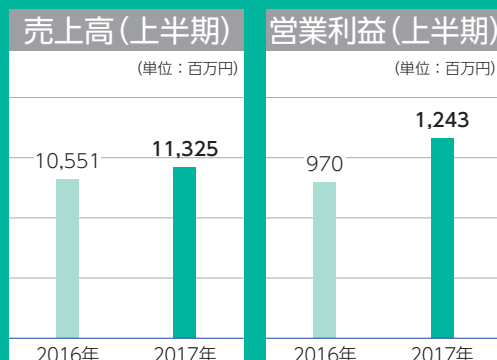
A2

当社アジアグループの中核事業会社であるクリヤマ株式会社の社長は、私が務めてまいりましたが、今年3月末に能勢広宣社長へ引き継ぎました。北米カナダグループの中核事業会社KCI社でも、長く社長を務めた、テリー・ジャクソン氏から、4月末にグレッグ・エストン氏へ引き継いでいます。両社には新しい社長のもとで、力強く各グループ

を牽引して行ってほしいと大きな期待をしています。当社クリヤマホールディングスとしても、新しい時代に対応するべく中核事業会社の経営を、若い世代へ継承し、今後の当社グループ全体のさらなる成長発展を目指してまいります。株主の皆様におかれましては、引き続きご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

セグメントのご紹介

北米事業



事業のご紹介

産業用ゴム・樹脂・メタルホースの、製造・販売・物流基盤を確立し、業界ポジションも北米トップクラスにあります。

製販一貫したサービスで、2,500社以上の販売代理店を通じ、主に建築土木、採掘、灌漑、食品、産業機械業界へ販売しております。

- 飲料用ホース
数本の飲料用ホースを束ね一体化した、付加価値の高い飲料搬送用ホースを提供しております。
- ガソリンドロップホース
過酷な使用条件下でも耐久性に優れた、ポリウレタン材質のガソリン注入用ホースを提供しております。
- メタルホース
排煙、排ガス、粉塵輸送など、過酷な耐久性を要求される用途に使用される金属フレキシブルホースを提供しております。
- 下水道洗浄用ホース
下水道管の洗浄に使用される高圧樹脂ホースを提供しております。
- 熱可塑性樹脂ホース
ゴム製ホースが使用されてきた過酷な使用環境下にも耐えうる新素材のホースを提供しております。

当第2四半期の概況

原油価格の上昇後の安定した状況に伴い、シェール・オイル&ガス市場向けホースの販売が回復基調で推移しました。また、飲料用ホースや高圧ホース等の販売が堅調に推移しました。



シェール・オイル&ガス用ホース

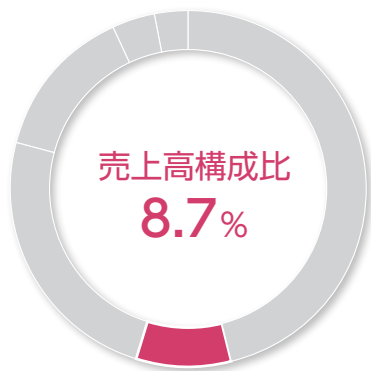
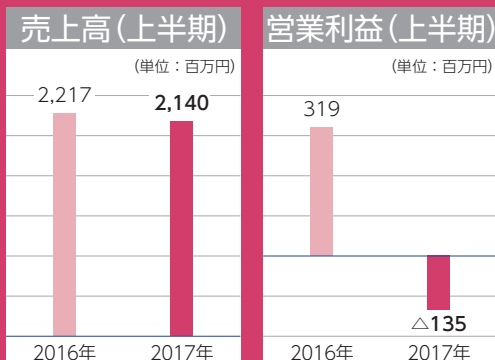


飲料用ホース



耐油仕様 熱可塑性樹脂ホース

欧州事業



事業のご紹介

ゴム製レイフラットホースを製造販売しており、業界ポジションも世界トップクラスにあります。

スペイン、アルゼンチン、アメリカに製販拠点を構え、世界各国の様々な業界に製品を販売しております。

- 産業用ホース
灌漑・農業・鉱山・水関連産業等の各業界へ、顧客ニーズに合った様々なホースを提供しております。
- 消防用ホース
火事や森林火災等向けに、消防用ホースを提供しております。
- 長尺、大口径ホース
鉱山、シェール・オイル&ガス業界にて遠距離送水に使用する、耐久性に優れた長尺、大口径のホースを提供しております。
- 消防用器具
消防用器具、ノズル等をホースとアッセンブリすることにより、付加価値の高い製品を提供しております。

当第2四半期の概況

消防用ホースやノズルの販売は堅調に推移しました。米国・中東オイル&ガス市場からの大口径ホースの見積照会が増加傾向にあり、今後の販売拡大が期待できます。

4月に米国最大の消防展示会 (FDIC international) に出展し、機能性を高めた消防ノズルの新商品を展示しました。また、米国市場向け新商品・ダブルジャケットホースの営業活動を開始しました。

今後も新商品開発による商品ラインナップを増加させるとともに、北米・南米・中東・アフリカ・アジア地域を中心に、新規顧客の開拓及び販売拡大を推進してまいります。



消防用ノズル

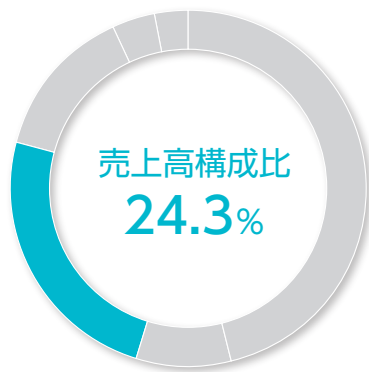
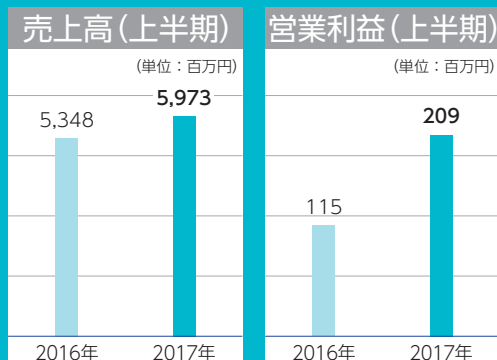


米国消防展示会 (FDIC international)



農業用ホース

産業資材事業



事業のご紹介

- プラント用資材事業
電力、船舶、化学プラント等向けの部材の販売・施工を行っております。
- 量産機械用資材事業
農業機械、建設機械、自動車等の量産機械に組み込まれる各種部材の製造・加工・販売をしております。
- 中国事業
中国における建設・土木・農業機械用部材、ゴム・樹脂成形品を販売しております。

当第2四半期の概況

船舶関連におきまして、長崎にて建造中の大型客船の二番船工事が売上に貢献しました。量産機械用資材事業では、建設機械や農業機械向けの尿素SCRセンサー及びモジュール・タンクの販売が堅調に推移しました。中国事業では、建設機械顧客の増産に伴う量産機械用部材の販売が回復したほか、シールドマシン向けシール材の受注が拡大しました。



客船床工事

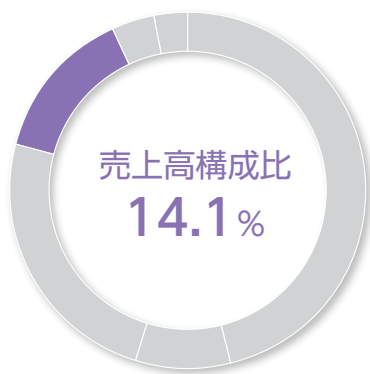
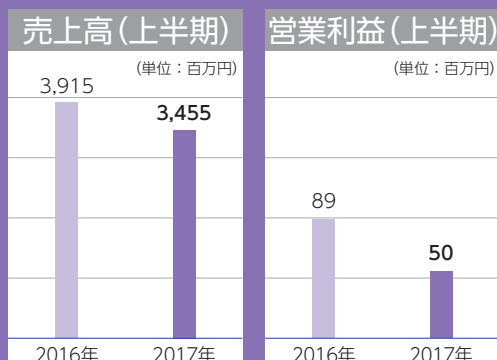


尿素識別センサー



NORMAクランプ

建設資材事業



事業のご紹介

- 建築用資材事業
商業施設用に、「スーパー・マテリアルズ」ブランドを展開し、セラミックタイルを中心に、お客様のニーズに合わせて施設に最適な床材をご提案、販売しております。
- 鉄道施設用資材事業
鉄道施設用の床材や階段を、専門性の高いお客様のご要望にお応えするべく「エーストン」ブランドとして、自社にて開発の上、販売しております。
- 道路土木用資材事業
公共工事に、道路・橋梁・土木関連の各種製品を、販売しております。
屋外の都市景観用のタイル製品を、「エコ&セーフティエクステリア」ブランドとして展開しております。

当第2四半期の概況

鉄道施設関連や公共インフラ関連の受注が好調に推移しました。

鉄道施設向けには、お客様のご要望に沿うように開発した、ホーム先端タイルなどの新製品が評価を得て多くのご採用をいただいています。

公共インフラ関連では、橋梁関連の部材や駅前歩道橋の再整備等の案件が増加しており、床材を含めた周辺製品の販売が好調です。

商業施設用タイルでは、昨年ほどの大型案件は少ないですが、デザインバリエーションがより充実したことでお客様のイメージに合う製品が選びやすくなっており、引き続き販売に注力してまいります。各事業ともに施工を伴う案件が多く、施工品質の向上に努め顧客満足度を高めることで、さらなるブランド価値の向上と販売拡大を目指してまいります。



歩道橋舗石タイル

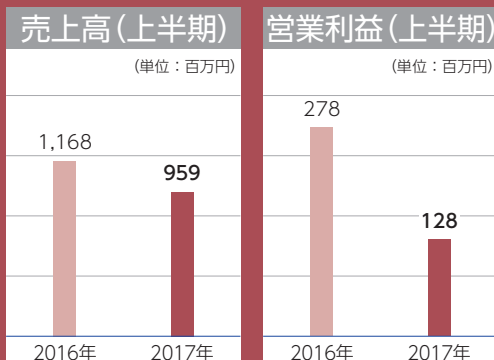


鉄道施設用タイル



商業施設用タイル

スポーツ施設資材事業



事業のご紹介

スポーツ施設等で国際的に実績が豊富な以下の主要商品の販売・施工を行っております。

- 陸上競技場等用
「スーパーX」(全天候型舗装材:国際陸上競技連盟認証品)
- 体育館等用
「タラフレックス」(弾性スポーツ床材:国際バレーボール/ハンドボール/テニス/卓球連盟認証品)
- サッカー場等用
「モンドターフ」(人工芝:国際サッカー連盟認証品)
「リモンターフ」(人工芝:国際サッカー連盟・ワールドドラグビー推奨商品)

当第2四半期の概況

昨年のリオオリンピック・パラリンピックで採用された「スーパーX」では、大型の改修工事を受注いたしました。

体育館の床材として、競技時の安全性や災害時の避難所としての役割を担う多目的性の観点から「タラフレックス」の販売が好調に推移しました。

人工芝では、「モンドターフ」が大型物件を受注しました。また、黒ゴムチップの有害性が問題視されたこともあり、安全性の高い「リモンターフ」にも注目が集まり、販売実績も増えて来ております。既存の人工芝の改修需要に対応するため、人工芝改修マシンを追加導入しました。マシンを使用した改修工事の販売拡大につなげてまいります。



全天候型舗装材「スーパーX」

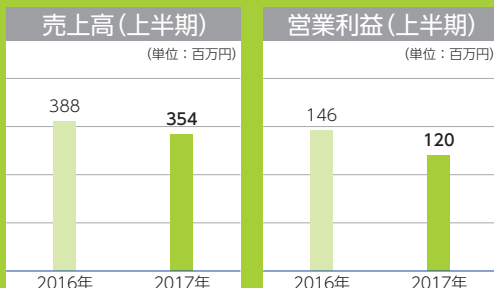


弾性スポーツ床材「タラフレックス」



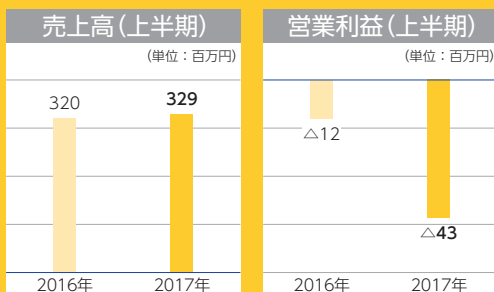
人工芝「リモンターフ」

ホテル事業



売上高構成比 1.5%

その他事業



売上高構成比 1.3%

当第2四半期の概況

クリヤマコンサル(株)が運営するビジネスホテル事業(ホテルコンサル)では、国内のインターネット予約販売および宿泊客の朝食売上は堅調に推移しましたが、海外観光客のインターネット予約販売は低調に推移しました。

なお、クリヤマコンサル(株)の全株式を当社グループ外の会社に5月12日に譲渡しました。

当第2四半期の概況

エアモンテ(株)ではイタリアのアウトドアブランド「MONTURA」製品を全国の有名アウトドアショップ等で販売しております。大阪の直営店、アルプステーション心斎橋店をリニューアルオープンし、5月15日には「MONTURA」の公式オンラインショップがオープンいたしました。今秋には、東京にも直営店をオープンする予定です。

「MONTURA」公式オンラインショップアドレス
<https://montura.jp/store/> 株主の皆様のアクセスをお待ちしております。

その他事業のグループ会社

- エアモンテ(株)
- KOC(株)
- (株)クリヤマ技術研究所

※前連結会計年度まで「その他事業」のグループ会社としていました上海栗山貿易有限公司は、当連結会計年度から「産業資材事業」のグループ会社に変更しました。

ホテル事業



ホテルコンサル
<http://www.consort.co.jp/>

その他事業



エアモンテ(株)アルプステーション心斎橋
 外観

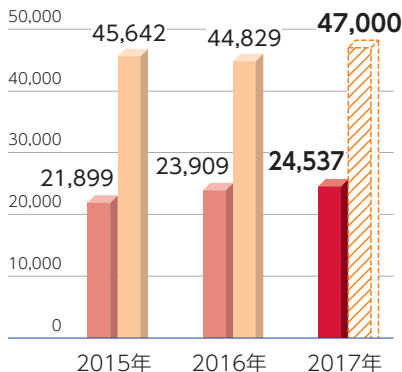


エアモンテ(株)アルプステーション心斎橋
 店内

連結業績

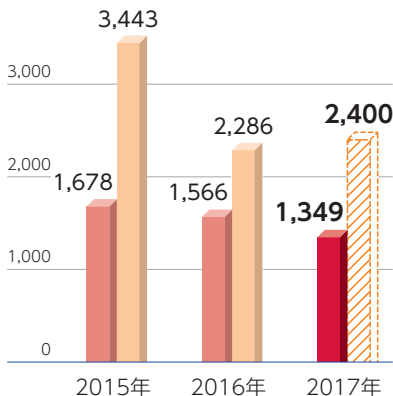
売上高

(単位：百万円) ■ 上半期 ■ 通期 □ 通期予想
60,000



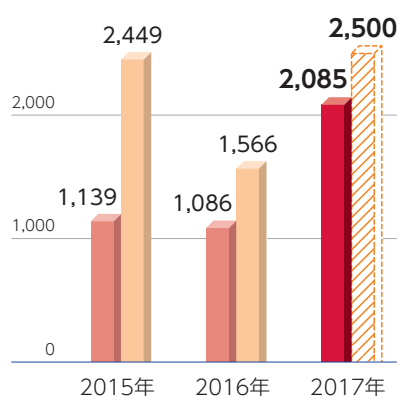
経常利益

(単位：百万円) ■ 上半期 ■ 通期 □ 通期予想
4,000



親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益

(単位：百万円) ■ 上半期 ■ 通期 □ 通期予想
3,000

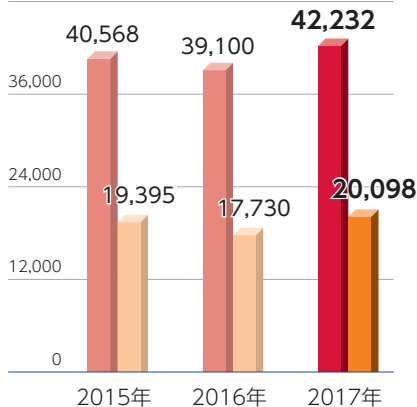


POINT

売上高は北米事業や産業資材事業等のセグメントが前年同期比で増加しました。親会社株主に帰属する四半期純利益はホテルコンサルトの株式売却益を特別利益に計上したことから、前年同期比で大幅に増加しました。

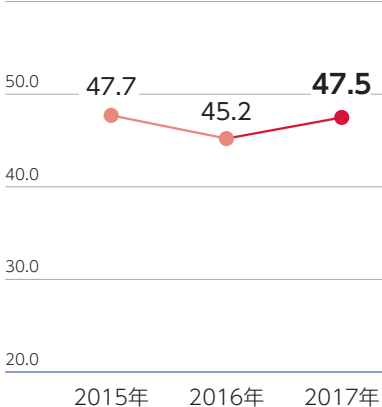
総資産・純資産(第2四半期末)

(単位：百万円) ■ 総資産 ■ 純資産
48,000



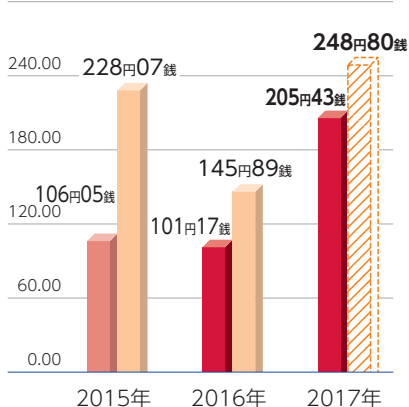
自己資本比率(第2四半期末)

(単位：%)
60.0



1株当たり四半期(当期)純利益

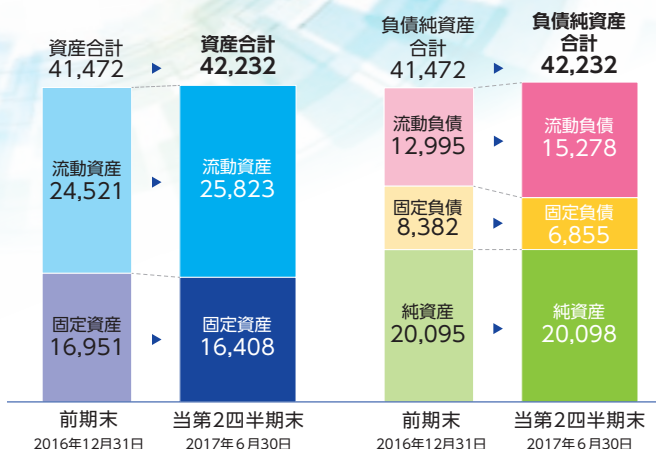
(単位：円) ■ 上半期 ■ 通期 □ 通期予想
300.00



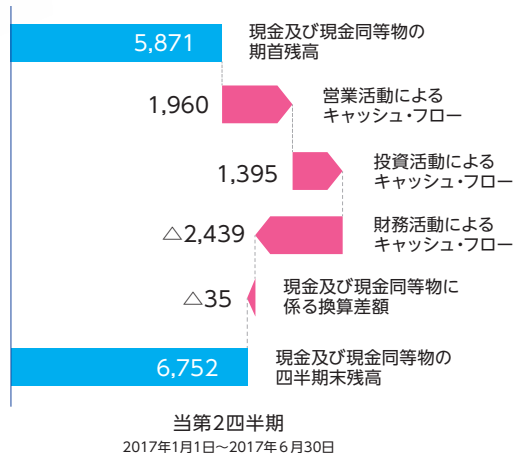
※自己資本=純資産-非支配株主持分-新株予約権(該当なし)

■ 連結貸借対照表の概要

(単位：百万円)



■ 連結キャッシュ・フロー計算書の概要 (単位：百万円)



■ 株式情報 (2017年6月30日現在)

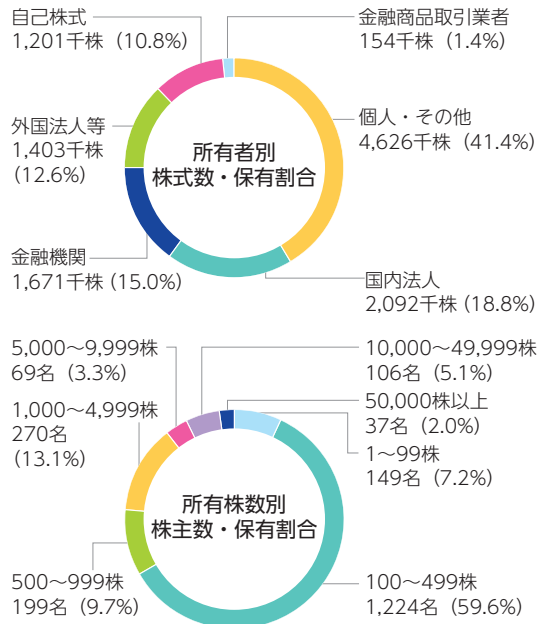
■ 株式の状況

発行可能株式総数	36,800,000株
発行済株式の総数 (自己株式1,201,857株を除く)	9,948,243株
株主数	2,054名
大株主 (上位10名)	

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
栗山博司	1,246	12.5
KBL EPB S.A. 107704	580	5.8
NOK株式会社	547	5.5
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	488	4.9
株式会社三菱東京UFJ銀行	245	2.4
クリヤマホールディングス従業員持株会	210	2.1
株式会社オーハシテクニカ	200	2.0
タイガースポリマー株式会社	193	1.9
御牧久美子	186	1.8
RBC ISB A/C LUX NON RESIDENT/DOMESTIC RATE-UCITS CLIENTS ACCOUNT	180	1.8

- (注) 1. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。
 2. 持株数については、千株未満を切り捨てて表示しております。
 3. 持株比率については小数点第2位以下を切り捨てて表示しております。
 4. 自己株式については、上記大株主から除いております。

■ 株式分布状況



会社の概要 (2017年6月30日現在)

■ 会社概要

社名	クリヤマホールディングス株式会社
英文社名	KURIYAMA HOLDINGS CORPORATION
資本金	7億8,371万6,600円
創業	1939年4月5日
設立	1940年12月21日
従業員数	9名(連結1,035名)

■ ホームページのご案内

当社最新情報を下記ホームページに掲載しております。

 <http://www.kuriyama-holdings.com/>

■ 役員

代表取締役CEO	芦田 敏之
取締役	Lester Kraska
取締役	能勢 広宣
取締役	西田 昌弘
取締役	Thomas Hanyok
取締役	二見 毅
取締役	元木 雄三
取締役監査等委員	宮地 久人
取締役監査等委員(社外)	泉本 哲彌
取締役監査等委員(社外)	松本 邦雄
取締役監査等委員(社外)	七山 聖學

株主メモ

事業年度	毎年1月1日から12月31日まで
定時株主総会	毎年3月
基準日	定時株主総会 …… 12月31日 剰余金の配当 … 期末 12月31日 中間 6月30日
単元株式数	100株
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号  0120-094-777 (通話料無料)
上場金融商品取引所	東京証券取引所 市場第2部
公告方法	電子公告の方法により行ないます。 ただし、事故その他のやむを得ない事由によって電子公告による公告をすることが出来ない場合は、日本経済新聞に掲載します。 (公告掲載URL http://www.kuriyama-holdings.com)
証券コード	3355

株主様の住所変更、配当金の受取方法の指定、単元未満株式の売却など株式に関するお手続きについて

証券口座を開設されているか、いないかでお手続き先が異なります。

▶ 証券口座を開設されている株主様

お取引されている証券会社等にお問い合わせ下さい。

▶ 証券口座を開設されていない株主様

特別口座のお問い合わせは、左記特別口座の口座管理機関であります三菱UFJ信託銀行株式会社・大阪証券代行部まで、お問い合わせ下さい。なお、同行全国本支店においてもお取扱いしております。